

## 秋田県キャンプ協会創立 30 周年記念事業に参加して



2024 年 10 月 26 日（土）に秋田県キャンプ協会創立 30 周年記念事業に参加しました。

祝賀会では、しーちゃん(理事長次田さん)がクマのぬいぐるみを着て登場！マロ(会長逸見さん)も合わせてポーズ！なんて楽しい人たちでしょうか。会長マロの挨拶では、30 年のキャンプ活動にける熱い想いを語り、中でもかまくらキャンプが印象に残りました。

そこで“北海道”はなんだろう？と考えたのでした。これから、みなさんと北海道をテーマにキャンプをやってみたくなりました。さて、何が良いのでしょうか？？写真は、秋田灯籠祭りなどをイメージした文化遺産切り絵と秋田国際ダリア園よりダリア。マロの挨拶。熊のぬいぐるみを着たしーちゃんとマロです。

安原 政志（NPO 法人自然教育促進会）

## 北海道アウトドアフォーラム 「10 年のキセキ∞アウトドアの未来」に参加して

私は、2024 年 11 月 15 日（金）～11 月 17 日（日）の 3 日間に渡り、国立日高青少年自然の家にて、北海道アウトドアフォーラムに参加しました。

”アウトドア”に関する教育・研究・ガイド・観光・行政…などに携わる約 100 名の方が集結し、三浦豪太氏による特別講演、参加者が提供する 23 の選択ワークショップ、展示・プレゼンテーションなどを通して学び合いました。

自然環境・子ども・地域社会・人との関わり…などから「北海道のアウトドアの未来」について語り合い、それぞれの立場・フィールドで活動するみなさんのシナジーが北海道を盛り上げていく！という可能性を感じる 3 日間でした！



榎井 亜実（公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会）

### 北海道キャンプ協会事務局

〒005-0862

北海道札幌市南区滝野 106 番地

NPO 法人ネイチャープログラムデザイン内

TEL&FAX 011-596-9170

メール hokkaido@camping.or.jp

URL <https://hokkaidocamp.com/>

Web ページ



Facebook



発行：北海道キャンプ協会広報部 編集：長江 集子

# HCA 北海道キャンプ協会 かわら版

2024 年  
12 月号

## キャンプ道



「学校の先生ではないからこそ作れる関係性もある」

私は、2023 年 10 月にキャンプインストラクター講習会を受講し、いわゆる「組織キャンプ」のいろはを学びました。そこで様々なご縁があって数々の野外活動イベントのお手伝いをさせていただく機会を得、ボランティア活動に勤しんでまいりました。これらの貴重な経験を引っ提げ、本年、上位資格のキャンプディレクター 2 級を受講し、今日に至ります。

ところで私は、キャンプ好きが高じて、2 年ほど前から町内会の親睦目的でグループキャンプを企画しています。

本年 9 月で 4 回目を迎えた今回は、これまでのレジャーキャンプとは趣向を変え、講習会や野外活動ボランティアで得た知識や経験をもとに「組織キャンプ」の精神、つまり、キャンプに教育的なねらいを持たせることとしました。

幸いにもキャンプ場が徒歩圏内にあるため、子どもたちと小一時間遊歩道を歩きながら薪となる枝を拾い、長ければ鋸で切る。それらに新聞紙とマッチを使って試行錯誤しながら火を点ける。その火を使ってカレーを作る。野菜を洗い、皮をむき、包丁で切る。これらの一連の流れを子どもたちだけで行わせることにしました。みんなで作ったカレーは格別です。2 つの大鍋に作ったカレーはきれいに空になりました。

仲間と協力して作業を進めるうえでの関わり合いは、教育現場そのものであると感じました。現に、子どもたちは時折私のことを「先生」と呼びました。一介の公務員である私は教壇に立った経験などなく、そもそも教員資格を持ちません。しかし、フィールドでは「先生」と呼ばれる立場になり、私の言動が子どもたちの成長に影響を及ぼすという責任を感じずにはいられませんでした。

先日受講したボランティア研修会での「学校の先生ではないからこそ作れる関係性もある」という言葉が心に響きます。この言葉を胸に、今後もフィールドの指導者として子どもたちと接するのが私のライフワーク（セカンドキャリア）となる予感がします。



一介の地方公務員徒歩キャンパー 菅野 直之（札幌市）

## キャンプインストラクター・キャンプディレクター2級 養成講習会報告

インストラクター・ディレクター2級養成講習会が9月21日（土）～9月23日（月・祝）の日程で札幌市青少年山の家を会場に開催され、ディレクター2級に5名、インストラクターに6名の参加があり、成功裏に2泊3日を終了することができました。

本講習会では、ディレクターとインストラクターの役割理解や安全管理、それぞれの立場に必要な知識や技術を学ぶとともに、ディレクター2級受講者が企画立案したプログラムをインストラクターが体験するという実践的な講習も行われました。また、今回初めてディレクター2級とインストラクターの養成講習会を一緒に開催しましたが、お互いの持っているスキルや知識、それぞれの立場で抱える疑問や課題についても休憩時間も使って話し合う姿が見られたほか、講師と参加者との交流を通して、吸収するだけでなく互いに学び合える時間が多くありました。

今回の講習会で新たな北海道キャンプ協会の仲間と、ディレクターも増えました。今後も北海道キャンプ協会では会員のスキルアップ及び交流の場の提供、各講習会を開催していきます。

ぜひ、皆さんも参加して北海道のキャンプを盛り上げていきましょう。

戸田 弥祥（浜頓別町教育委員会）



## 参加者の声

～キャンプインストラクター養成講習会を受講して～

私は高齢者福祉分野で約10年間勤めた後、「地元でアウトドアに関わる仕事がしたい」という思いから、アウトドアが盛んなニセコエリアへ移住し、キャンプ場での勤務、教育旅行のガイドなどの経験を積み、2022年地元の木古内町にUターンしました。

現在は観光協会の業務をする傍ら、地域の子どもたちが課外活動に取り組む団体でお手伝いをしています。

今後は、今回の研修での学びを活かし、プログラムを組む段階から関わり、地域の子どもたちへ安全で楽しいキャンプ、木古内の自然の魅力を伝えていきます。



竹田 伴生（木古内町観光協会）

## 札幌市「自然体験活動リーダー養成講座」実施報告

札幌市では、子どもたちが社会で生きるために必要な基礎的な能力を育むことを目指し、野外教育総合推進事業を実施しています。その一環として、地域で自然体験活動を提供できる人材を養成するための「自然体験活動リーダー養成講座」が実施されました。

この講座の講師を札幌市教育委員会から北海道キャンプ協会に依頼され、全6回のプログラムのうち、私はその前半3回の講義を担当しました。テーマは、第1回「自然体験活動の特性と対象」、第2回「自然体験活動のリーダースキル」、第3回「自然体験活動の安全」となり、参加者は教員、児童会館職員、公務員など、さまざまな職業の方々でした。

第1回は9月16日（月祝）、滝野自然学園で実施されました。講義のほか、アイスブレイクやアウトドアクッキングなどの実技も交えながら、参加者同士の交流を深めました。第2回（10月16日）と第3回（11月13日）は、いずれも平日の夜19時からエルプラザで行われ、業務終了後にもかかわらず、参加者は積極的に講義に耳を傾けてくださいました。

参加者それぞれが異なる職場環境や子どもとの関わり方を持っていますが、今回学んだ内容を活かして、それぞれの現場に合った自然体験活動を提供していただければと考えています。本講座を通して、参加者が自然体験活動のリーダーとしてのスキルを高め、地域での活動に積極的に取り組んでくれることを期待しています。講座は3月まで続きます。受講生の皆さん、頑張ってください。



坂谷 充（北翔大学）

## 『『ういきゃん。』 ツアー2024～晴々』 報告

北海道キャンプ協会に名義後援をいただいた当事業についてご報告させていただきます。

6月23日～24日に、安平町ときわキャンプ場で、当法人主催の「ういきゃん。」を開催いたしました。この「ういきゃん。」はキャンプの裾野を広げるため、キャンプ初心者の方や、家族キャンプを楽しみたい方を対象に、「誰もが楽しめるキャンプ」を目指して行われました。

当日は7組25名の方にご参加いただき、子ども向け冒険プログラム、保護者向け安らぎプログラム、親子向け調理プログラムにチャレンジしていただきました。

初めてで不安そうな参加者もいらっしゃいましたが、キャンプインストラクター同期のガースさん、ハピさんをはじめとしたボランティアスタッフが設営からプログラム運営、調理など様々な場面でサポートしてくれたことで、キャンプに対する漠然とした不安が解消された様子でした。

参加した子どもたちは年齢や出身に関係なく皆仲間になり、帰るのが惜しそうにしていたのが印象的でした。来年はもっともっとこの輪が広がり、キャンプがもっと誰にとっても身近なレジャーとなり広まっていくよう活動してまいります。



榛 伸悟（NPO法人 North OUTDOOR Connect 野窓）